

授業科目名	文学	教員名	中村 佳文 (実務経験のある教員)	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択必修
					小学校教諭	選択
科目番号	JIN101	配当年次	1年後期		幼稚園教諭	選択
授業形態	講義				保育士	選択必修
単位数	2単位				こども音楽療育士	
科目					情報処理士	
施行規則に定める科目区分						
一般目標	文学の面白さ楽しさを、講義及び作品の読みを通して体験的に理解する。また、自らの読書領域を広げ日本の言語文化を知り、短歌をはじめ文芸作品を読み味わう興味を拓げる。					
到達目標	1) 文学作品の魅力面白く楽しく実感・理解できる力を養う。 2) 短歌に向き合い主体的に当事者意識を持って読む力を身に付ける。 3) 個人・社会・世界的な問題を考えることにより視野を広げ、文化論的な視点を持つ。 4) 短歌を元に「物語」「手紙」が創作でき、自ら短歌実作を楽しむことができる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている」「5. 教育実践力を身につけている」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	日本文学の面白さ楽しさと意義について学び、主に「恋歌」について読みを深め体験的に理解する講義である。宮崎県は「日本一の短歌県」を目指しているが、その起因となった若山牧水の短歌について恋歌を中心にした講義より始める。またテキスト『日本の恋歌とクリスマスー短歌とJ-pop』（新典社2021）により、日本におけるクリスマス受容史を文化論的に辿りながら、短歌とJ-popとを比較する視点から考察を深めて行く。課題は鑑賞や批評ではなく、短歌を題材にした自らの「創作物語」「ラジオドラマ」「朗読劇」「手紙」「短歌実作」などを課し、表現する活動を通して対象とする短歌の読みの力を増進させる。講義全体を通して「恋とは何か?」「日本においてクリスマスとは何か?」という問題意識が高まり、文学と文化への豊かな視点を獲得し幅広い社会生活に貢献できる意識の醸成を目指したい。「短歌県みやざき」の日本全国でもここにしかない学びとして、担当者が短歌創作や研究・評論活動・講演出演などの実務経験を十分に活かした講義とする。					
履修条件・注意事項	特にないが「日本語表現」などの科目との関連を意識すること。					
授業計画	<p>【第1回】短歌県みやざきで学ぼう 本県出身で日本の近現代短歌史に不可欠な若山牧水の名歌を読み、その背景に若い頃の恋の経験が色濃く表現されていることを学ぶ。(目標 1),2)</p> <p>【第2回】若山牧水の青春と恋① 若山牧水の若き日の恋歌を読み、その表現描写から恋心の奥深さや熱さを理解する。短歌の根本的な存在理由が「相聞」「恋」であることを体験的に学ぶ。(目標 1),2),3),4)</p> <p>【第3回】「胸騒ぎの最後のLady」ー恋と短歌とJ-pop 恋歌はどんな時にできるのか?サザンオールスターズ・桑田佳祐さんの曲作りに注目しつつ、切ない出逢いと別れの物語について考える。(目標 1),2),3),4)</p> <p>【第4回】忘れられた待つこと(1)ーあなたのハロウィンとは? テキスト第1章にもとづき、「待つ」ことが恋の根本的なあり方であることを、当事者意識をもって考える。(目標 1),2),3),4)</p> <p>【第5回】忘れられた待つこと(2)ーほととぎす鳴くや テキスト第1章にもとづき、「待つ」ことが恋の根本的なあり方であることを、当事者意識をもって考える。(目標 1),2),3),4)</p> <p>【第6回】身もこがれつつー『百人一首』の待つ恋 テキスト第2章にもとづき、『百人一首』にある「待つ恋」の和歌を読み、現代の恋のあり方と比較する視点を獲得する。(目標 1),2),3),4)</p> <p>【第7回】クリスマスだからじゃない(1)ー1980年代の恋人たちのクリスマス テキスト第3章にもとづき、1980年代のJ-popを聴きつつ現代の恋のあり方を考える。CM映像なども観ながら、自らの創作作品の参考にする視点を持つ。(目標 1),2),3),4)</p> <p>【第8回】クリスマスだからじゃない(2)ー恋人たちのクリスマスキス テキスト第3章にもとづき、1980年代のJ-popを聴きつつ現代の恋のあり方を考える。CM映像なども観ながら、自らの創作作品の参考にする視点を持つ。(目標 1),2),3),4)</p> <p>【第9回】日本の恋歌とクリスマス①ー戦勝・狂瀾 明治代以降の日本のクリスマス受容史について短歌を通して学び、現代において我々が経験する「クリスマスとは何か?」という問題意識を深める。(目標 1),2),3),4)</p>					

	<p>【第10回】日本の恋歌とクリスマス②—家庭・やがてクリぼっち 明治代以降の日本のクリスマス受容史について短歌を通して学び、現代において我々が経験する「クリスマスとは何か?」という問題意識を深める。(目標 1), 2), 3), 4))</p> <p>【第11回】日本の恋歌とクリスマス特別版—あなたの今年のクリスマス 明治代以降の日本のクリスマス受容史について短歌を通して学び、現代において我々が経験する「クリスマスとは何か?」という問題意識を深める。(目標 1), 2), 3), 4))</p> <p>【第12回】短歌県みやざきに詠う—「永遠を待つ」 「短歌県みやざき」に在住の歌人の短歌を読み、「口蹄疫」など宮崎県が直面した問題について当事者意識をもって想像でき、「宮崎」の素晴らしさを再認識する。(目標 1), 2), 3), 4))</p> <p>【第13回】さよならは永遠の旅—待つことの愉悦 生きるとは「永遠の旅」であることを短歌とJ-popから読み取り、「待つ」ことこそに「愉悦」がありことを実感できるようにする。(目標 1), 2), 3), 4))</p> <p>【第14回】あなたのための短歌①—短歌づくり これまでの講義で読み味わった短歌を基礎として、受講者自らが短歌を創作する。 (目標 1), 2), 3), 4))</p> <p>【第15回】あなたのための短歌②—歌会体験 受講者各自が創作した短歌について、無記名で批評し合う歌会を実施する。創作した当事者でも気付かない読みに出会う共感と驚愕を十分に体験してほしい。(目標 1), 2), 3), 4))</p> <p>【試験・第16回】講義内容に即し創作的な観点から問う論述試験。 (事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p>
授業外学修時間の確保について	講義内容はテキストに沿ったものなので、講義の前後にテキストを十分に精読し予習として授業の見直しを立て、復習として内容理解の深化を図ること。毎回の講義では授業内で創作表現の課題を課すので、テキストの内容を応用する意識が必要であることを心得ること。
学生に対する評価	講義課題提出50%、期末試験50%で評価を行う。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・授業前後に口頭で行う。 ・課題例を授業で講評する。
テキスト	・ 『日本の恋歌とクリスマス—短歌とJ-pop』中村佳文著(新典社選書108 2021) ISBN:978-4-7879-6858-6
参考書・参考資料等	テキストの「参考文献一覧(P217—221)」を参照
担当者からのメッセージ	いま若い人たちの間でブームとなっている短歌が楽しいことを実感しましょう。
オフィスアワー	授業日の次の時間 毎週火曜日 8:45~9:05 ・ 12:15~12:35
備考	担当教員は、短歌創作者・研究評論者としての実務経験を活かし、文学の評論や創作について本講義を担当する。 ・メールアドレスについては、授業中に周知する。